

集

病院経営者の羅針盤

中

2013年8月31日発行(毎月月末発行) 第6巻第9号通巻66号 定価1,500円(本体1,429円) 年間購読料18,000円

MediCon.
9
2013 SEP

やりたい政策よりもまず修正ありき
本末転倒の安倍政権「憲法改正」論議

木村 草太

首都大学東京都市教養学部法学系准教授



Art in Hospital

東京臨海病院
川崎クリニック

依然突破口が見えぬ
ノバが落ちた「陥穽」

「立件」のXデーを前に
厚労省は戦々恐々の日々

集中
MEDICAL CONFIDENTIAL MediCon. 139

オピニオン 白井徹郎
東京警察病院院長 / 乳がんを全人的に診る「ブレストセンター」

集中出版株式会社

医療の最前線
MediCon. 2013 SEP 9
MEDICAL CONFIDENTIAL

乳がんを全人的に診る「ブレストセンター」

移転を機に「地域密着型」の病院に再生

東京警察病院院長
白井 徹郎



地域に根差す安全・快適の透析医療

⑧ 川崎クリニック (神奈川県川崎市)



広々としたエントランス

糖尿病や高血圧などが原因で発症し、「新たな国民病」といわれる慢性腎臓病(CKD)。腎臓の機能が低下する病気で、悪化すると人工透析や腎移植が必要になる。動脈硬化や心筋梗塞など血管の病気も起きやすい。約1300万人もの患者に対し、腎臓専門医はわずか3400人。このため、患者の多くは専門レベルの診療が受けられないでいる。

そのような状況下、神奈川県川崎市に本拠を置く社会医療法人財団石心会は、グループの川崎幸病院と三つのクリニックでCKD診療のネットワーク

を形成。糖尿病の診療から腹膜透析・通院透析、合併症の予防と治療まで、外来、入院の切れ目なく対応できる体制を川崎市南部地区で築いている。その中心となっているのが川崎クリニックだ。

同クリニックは1980年の開院以来、透析医療に取り組んできた。建物の老朽化のため、今年3月に近隣に移転。その際、人工透析治療床を105床から113床に増床し、透析患者の合併症治療や、糖尿病や腎臓病患者の早期治療を行うために外来診療も開始した。混雑して予約が取りづらかった一般外来診療を行っている同法人川崎幸クリニ



ベッドサイドのテレビは自由に視聴できる



腰椎でより正確に骨塩量を測定する「DEXA」。クリニックでの導入は珍しい



院内に病院並みの分析器があるので1時間ほどで血液検査の結果が分かる



患者が迷わないようにカーペットをフロアごとに色分け



エンドキシンフリーの透析液を使用している



見晴らしの良い社員食堂。日替わり定食は300円と安い

ックの混雑緩和の狙いもある。CT、DEXA(デキサ)、エコーをはじめ、院内に検体検査室を設けるなど一般的な透析施設と比べてかなり高機能で大規模だ。

昼夕夜の3クールで透析治療を実施する同クリニックには現在、約300人の患者が通院している。患者の生活の質(QOL)を重視し、身体的負担を可能な限り軽くする医療を目指している。その一環として、透析液の清浄化にはいち早く取り組んだ。透析液に有害物質があると、不快な症状や合併症の原因となるからだ。

CKDの重症化を防ぐには、食事管理も必要だ。そこで、管理栄養士が作成した献立を基に、タンパク質と塩分を抑えた透析食を無料で提供している。また、治療を始める前に、ソーシャルワーカーが全ての患者と面談し、さまざまな相談に応じるなど、スタッフも充実。さらに、通院の負担を軽減するため、駅とクリニックを結ぶ無料シャトルバスを運行したり、体の不自由な方には自宅まで送迎するサービスも行ったりしている。

高い医療水準に加え、きめ細やかな対応が地域の評判を呼んでいる。